

ちょっと考えてみましょう！

やまもと まさひろ
山本 昌弘

●連合・企画局長

さて、連合に来て、半年近くが経ち、ようやく生活環境には慣れてきたところであります。この「New Wave」の執筆に関しては、とくにテーマはお任せするとのことで、労働組合のこと、社会のこと、さらに日頃考えていることなどを寄稿してほしいとのことですので、自分が何となく、思っていること（いつも思っていることではないですが）を書いてみたいと思っています。

先ほど連合に来て半年と書きましたが、以前約20年前に東京に住んでいたことがありました。その時と比べたら、生活環境含めめまぐるしい変化（高層マンション群や新幹線の更なる高速化等）がありました。そのことは、技術の進歩が格段に高まったのことで、歓迎すべきことであると思っています。

その技術の進歩のなかでも、携帯（ガラケー）からスマートフォンへの代替は特筆すべきことであります。携帯の普及においてさえ、いつでもどこでもだれとでも話ができて、生活パターンが大きく変わってしまったわけですが、スマートフォンの登場は、それ以上に画期的であり、人間の行動パターンを根底から変える技術の進歩であると思っています。

現在は電車、新幹線、飛行機すべてにカードがなくても乗れる機能が付加され、ますますカードレス化が進展していくと思いますし、現金の使用も少なくなってきたと思います。

しかしながら、ちょっと考えてみると、スマートフォンの登場によって、人間と人間が直接話す機会、会話の絶対量が格段に少なくなっているのではないのでしょうか？

いまの立場で、「最も必要な能力は？」と聞かれたら、即座に「コミュニケーション能力」と答えますが、先ほどのスマートフォンの登場によって、会話の絶対量が少なくなっているのも実感しています。ちょっとしたやりとりなら、LINEを通じて連絡しておけばいいですし、既読がつけば伝わったとわかるので、大変便利であることは事実です。

しかし、これから私たちの生活に深く関わってくる技術革新として、AI（人工知能）の進展があります。労働力不足の緩和といった「光」の部分と雇用・働き方などの就業構造に大きな変革を及ぼす「影」の部分があると言われていています。急速な技術革新には、光と影の両面が存在するのでしょうか、私をもっとも心配することは、人間の会話の絶対量が減っていき、さらに、考える能力も奪われていくのではないかと考えてしまいます。

技術の進歩でも変えていけないもの、変わってはいけないものがあります。「モノ（もの）」を介して人と接する機会が多くなればなるほど、私個人としては、人と人とが直接会って、会話することの大切さ・重要さを心に刻んで、今後も頑張っていきたいと思っています。